日本対がん協会賞
受賞者のみなさん

公益財団法人　日本対がん協会

◆日本対がん協会賞は、対がん運動に功績のあった個人および団体に贈るもので、がん征圧全国大会で表彰しています。対がん協会創立10周年の昭和43（1968）年度に始まり、検診の指導やシステム開発、第一線の検診・診断活動、がん予防知識の普及や啓発活動などに地道な努力を重ねた方々や、団体を対象としています。

◆朝日がん大賞は、将来性のあるがん予防の研究開発や活動等を行っている個人や団体を顕彰する賞です。平成13（2001）年度に朝日新聞社の協力を得て、日本対がん協会賞の特別賞として設けました。副賞は100万円。

■ 朝日がん大賞
（日本対がん協会賞　特別賞）

	年　度	受　賞　者	所　　属	業　　績
第24回	令和6 (2024)	中釜（なかがま）　斉（ひとし）	国立がん研究センター 理事長	1995年に国立がんセンター(現国立がん研究センター)研究所の発がん研究部室長に着任以来、環境中の発がん要因や遺伝子レベルでの要因を解明する研究に従事してきた。遺伝情報から個人に適した医療を提供する「がんゲノム医療」が進む中、がんや難病の全ゲノム解析に関する厚生科学審議会の専門委員会委員長を務め、新薬開発や疾病予防への展開など、日本のがん対策に貢献。今後、ゲノムデータ基盤によるがん予防への展開が期待される。
第23回	令和5 (2023)	秋山（あきやま）　正子（まさこ）	認定NPO法人マギーズ東京 共同代表・センター長	1992年に東京・新宿で訪問看護を始め、2011年に誰もが気軽に相談できる「暮らしの保健室」を開設。2016年には、がん経験者や家族がくつろぎ、悩みを相談できる「マギーズ東京」を東京・江東に開設した。家でも病院でもない「第三の場所」として、原則予約なしで看護師ら専門職がじっくり話を聞き、自分で考える力を取り戻せると評価されている。
第22回	令和4 (2022)	祖父江（そぶえ）　友孝（ともたか）	大阪大学大学院医学系研究科 社会医学講座環境医学教授	がん対策に必要な研究基盤の強化、科学的根拠に基づくがん検診の普及啓発に努めた。2004 ～ 2014 年に「がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究」班の主任研究者として地域がん登録を国として統括する体制を整え、全国がん登録につなげた。国立がん研究センターに開設したがん統計情報サイトは教育や研究に活用され、がん医療や予防の新たな展開に貢献した。2015 年度の全国疫学調査は、子宮頸がん予防に有効なＨＰＶワクチン接種の 2022 年度からの積極的勧奨の再開に影響を与えた。
第21回	令和3 (2021)	天野（あまの）　慎介（しんすけ）	一般社団法人 グループ･ネクサス･ジャパン 理事長	悪性リンパ腫の闘病経験がきっかけとなり、がん患者の支援活動に 20 年以上携わっている。現在は、悪性リンパ腫の患者や家族に適切な医療情報や交流の場を提供するとともに患者・家族の医療環境向上のための調査研究、政策提言などをおこなう患者団体グループ・ネクサス・ジャパンの理事長を務める。また、2009 年から厚生労働省がん対策推進協議会の委員と会長代理を 2期4年務め、国のがん対策推進基本計画の策定に関わった。2015 年には、がん患者に共通する課題解決のため、一般社団法人全国がん患者団体連合会を設立し、理事長を務めるなど、患者の立場からの情報発信、患者支援の活動を続けている。
第20回	令和2 (2020)	株式会社松下産業 （松下和正社長）		1959 年創業。オフィスビルやマンションの建築、リニューアル工事、土木工事などを手がける総合建設会社。従業員数 238 人の中小企業だが、がん治療と仕事の両立、社員のがん検診受診などに積極的に取り組んでいる。がんと診断された社員には専門部署の担当者が各種制度を説明し、心のケアなども行う。働けなくなった社員の収入の一部は保険（ＧＬＴＤ）で補填する。がん治療と仕事の両立を支える大企業の活動とは異なり、日本企業の約７割を占める中小企業でのこうした活動には強いメッセージ性がある。

	年　度	受　賞　者	所　　属	業　　績
第19回	令和元 (2019)	国立がん研究センター がん対策情報センター （センター長・若尾文彦）		がん対策情報センターは、がん登録の運用と活用、日本のがん情報提供とがん相談支援体制の構築などを目的に 2006 年に設立された。以来、がん診療連携拠点病院における院内がん登録の実施体制を整備し、07 年から全国集計を実施。15 年には 07 年症例の 5 年生存率を公表、19 年には全国がん登録に基づく、がん罹患数を初めて集計した。構築した「がん情報サービス」のサイトでは、がんの解説から、診断、治療、療養まで幅広い範囲の情報を作成し、発信し続けている。がん相談支援センターのがん相談員の育成も進めるなど、日本のがん対策、特にがん統計の集計、正しい情報に基づく患者支援に大きく寄与している。
第18回	平成30 (2018)	樋野（ひの）　興夫（おきお）	順天堂大学医学部教授	医療者ががん患者と対話しながら、患者の悩みを解消する「がん哲学外来」を提唱し、2008 年に順天堂大学順天堂医院内で試行した。以来、既存の「がん相談」とは異なり、喫茶店などでお茶を飲みながら、がんについて患者と語り合う「がん哲学外来」の活動が定着。さらに医師、看護師らの医療従事者や市民が自主的に集う「がん哲学外来メディカルカフェ」としても全国に広がり、全国 150 カ所以上で開催されるまでになった。医療現場と患者、家族の隙間を埋める場を作り、患者・家族が尊厳を持って生きる社会の実現に貢献した。
第17回	平成29 (2017)	久道（ひさみち）　茂（しげる）	宮城県対がん協会会長	日本のがん検診を科学的根拠に基づいて進めるために、がん検診の有効性の評価に関する研究を推進。厚生省（現・厚生労働省）の「各種がん検診の有効性評価に関する研究班」の主任研究者として 1998 年にまとめた報告書で、主要ながん検診について、ＥＢＭ（科学的根拠に基づく医療）の手法に基づき、その有効性の有無や大きさを明らかにし、日本におけるがん検診の方向性に明確な指針を示した。
第16回	平成28 (2016)	特定非営利活動法人 地域がん登録全国協議会 （理事長・田中英夫）		都道府県の任意事業だった地域がん登録事業の基盤整備などを目的に、都道府県のがん登録担当者有志によって 1992 年に設立。がん登録事業の技術支援、人材育成などに努め、2013 年 12 月に成立した「がん登録等の推進に関する法律」の原案作成などでも重要な役割を果たした。我が国のがん登録の基盤整備や登録データの利活用を促進し、有効ながん対策の推進に貢献した。（地域がん登録全国協議会は、16 年 10 月に「日本がん登録協議会」に名称を変更しました）
第15回	平成27 (2015)	一般社団法人 日本がん治療認定医機構 （理事長・平岡真寛）		日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、全国がん（成人病）センター協議会の 4 団体の連携で 2006 年に設立。15 以上のがん患者団体とも連携しながら、国等の資金を使わず、患者中心のがん治療認定医（身近にいるがん治療の総合医）をこの10年で約1万4400人育成し、がん患者の要望にも応える「がん治療認定医」制度を確立した。
第14回	平成26 (2014)	大橋（おおはし）　靖雄（やすお）	中央大学理工学部 人間総合理工学科教授 （生物統計学）	科学的に計画された臨床試験の重要性を早くから訴え、試験の質を支える独立した統計センターの設置とデータマネジメントを実践。胃がんなど数多くの臨床試験のほか、がん検診に関する大規模無作為化比較試験、J-START など、がん検診研究にも統計・データ管理責任者として貢献している。東京大学に我が国初の生物統計学講座を設け、専門家の育成にあたった。

	年　度	受　賞　者	所　　属	業　　績
第13回	平成25 (2013)	菊地（きくち）　浩吉（こうきち）	北海道対がん協会会長 （札幌医科大学元学長）	「自己のがんに対する免疫抵抗性の証明」など、がん免疫学の基礎確立に大きく貢献し、早期のうちにがんを発見し、対応することが最も効果的ながん予防になることを理論的に裏付けた。その一方で、四十数年にわたり、北海道におけるがんの啓発活動、検診受診者やがん患者の予後調査にかかわり、北海道のがん対策に重要な役割を果たしてきた。
第12回	平成24 (2012)	静岡県立 静岡がんセンター がんよろず相談 （相談支援センター） （総長・山口建）		2002 年の開院以来、病院・研究所・疾病管理センターが一体となり、がん患者や家族が抱える悩みや負担を和らげる支援に取り組む 。とくに「がんよろず相談（相談支援センター）」は、対面・電話による相談に対応することなどで、21 世紀の理想のがん相談を追求し、全国のがん診療連携拠点病院に設置された相談支援センターのモデルともなっている 。
第11回	平成23 (2011)	山下（やました）　俊一（しゅんいち）	福島県立医科大学副学長 （長崎大学教授）	1991 年以降、旧ソ連・チェルノブイリ原発事故後の学童検診を現地で主導し、放射線被曝と小児甲状腺がんの研究実績が評価された。また、2011 年 3 月に発生した東京電力福島第一原発事故の現地で、低線量慢性放射線被曝による発がんリスクの評価と長期にわたる県民健康管理プロジェクトに携わり、新たな放射線医療科学の体制づくりが注目された。
第10回	平成22 (2010)	津金（つがね）　昌一郎（しょういちろう）	国立がん研究センター がん予防・検診研究センター 予防研究部長	1990 年に始まった「多目的コホート研究（JPHC study）」の中心的存在であり、「生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究班」を組織、主導する。いずれの研究も、日本人のがんを予防するための科学的根拠が提供され、がん予防法の科学的な知識の普及に貢献した。
第９回	平成21 (2009)	浅香（あさか）　正博（まさひろ）	北海道大学病院病院長	1996 年から 2000 年にかけ、ヘリコバクター・ピロリと胃がんとの関わりを疫学的観点から明らかにした。また、日本ヘリコバクター学会ガイドライン作成委員会委員長として、わが国最初のガイドラインを作った。 08 年、ピロリの除菌によって２次胃がんの頻度が約 ３分の１に減少したという研究結果を発表し、大きな反響を呼んだ。
第８回	平成20 (2008)	癌研有明病院 （院長・中川 健）		平成 17 年（2005）に東京・豊島区から有明臨海副都心に移転して生まれ変わった「癌研有明病院」は、がん患者の臓器別チーム医療を原則にし、キャンサーボードという組織によって集学的な治療方針が立てられる。この体制は、全国のがん拠点病院や国のがんプロフェッショナル養成プランの規範になっている。
第７回	平成19 (2007)	森山（もりやま）　紀之（のりゆき）	国立がんセンター がん予防・検診研究センター長	ＣＴ撮影の効率化と画質の向上を図るため、関係企業と協力して、撮影台を移動させながら体積単位の画像情報が収集できるヘリカルＣＴの開発に取り組んだ。 1993 年からはこれを利用した肺がん一次検診を実施、通常の胸部単純Ｘ線撮影では見つからない早期肺がんが多数あることを突き止めた。

	年　度	受　賞　者	所　　属	業　　績
第６回	平成18 (2006)	かねこ　まさひろ 金子　昌弘	国立がんセンター中央病院 内視鏡部咽喉内視鏡室医長	低線量、高速らせんＣＴによる肺がん検診の方法を確立し、実際の検診現場に世界で最初に導入した。肺野末梢の肺がん発見の精度が著しく向上することを証明して、ＣＴによる肺がん検診の先駆けとなった。さらに、ＣＴ検診の判定基準策定などを通して、全国的な ＣＴ検診の普及と精度向上・均一化のための活動を積極的に行っている。
		そね　しゅうすけ 曽根　脩輔	信州大学名誉教授	長野県内で一般住民対象の大規模な肺がんＣＴ検診を試行。Ｘ線被曝線量低減の可能性も追究する一方、適当な検診年齢や検診回数を示すなどの取り組みも進めた。県内のＣＴ検診車による肺がん発見率は従来の間接撮影方式に比べて大幅に向上し、そのほとんどは治癒可能な早期に発見されるという成果となった。
第５回	平成17 (2005)	みき　かずまさ 三木　一正	東邦大学医学部教授 （内科学講座第１）	胃の前がん性病変とされる慢性萎縮性胃炎を、血液中に含まれる物質ペプシノゲンの値で診断する「ペプシノゲン法」を世界で初めて開発した。この方法が胃がんの早期発見に有効であることを検証し、Ｘ線を使わない胃がん検診方法として、検診システムの確立と普及に実績をあげた。
第４回	平成16 (2004)	おおしま　あきら 大島　明	大阪府立成人病センター調査部長 （地域がん登録全国協議会理事長）	地域がん登録の推進、登録データの集計・分析によるがん実態調査と、がん予防のための禁煙指導法や禁煙指導プログラムの開発・普及に尽力。プログラムは医師や保健師による健康教育（禁煙）のマニュアルとなっている。日本禁煙推進医師歯科医師連盟会長なども務める。
第３回	平成15 (2003)	わたなべ　ひろき 渡辺　泱	明治鍼灸大学大学院教授 （第三基礎医学講座）	両氏は前立腺がんの検診システムの開発と普及に貢献した。渡辺氏は経直腸的超音波診断法による前立腺がんの集団検診システムを開発、さらにＰＳＡ検査も導入し、標準的な前立腺がん集団検診システムを確立した。
		やまなか　ひでとし 山中　英壽	群馬大学大学院教授 （医学系研究科 泌尿器科学）	山中氏は、早くから自治体の前立腺がん検診に取り組むとともに、ＰＳＡ検査の導入や、超音波誘導下多数箇所針生検システムによる検診システムを確立した。
第２回	平成14 (2002)	さいとう　ひろし 斎藤　博	弘前大学助教授 （生涯学習教育研究センター）	便に含まれる人間の血液を特異的に検出する免疫学的便潜血検査を研究、大腸がんのマス・スクリーニングのための検査法を完成させた。この方法による大腸がん検診の有効性を検証し、検診システムの確立、普及に実績をあげた。
第１回	平成13 (2001)	おおうち　のりあき 大内　憲明	東北大学大学院教授 （医学系研究科 腫瘍外科学）	マンモグラフィ検診が、乳がんの早期発見と死亡率減少に結びつくことを証明し、2000 年度（平成 12 年度）から、乳がん検診の国の指針にマンモグラフィ検診を導入することに貢献した。

■ 日本対がん協会賞 個人の部

計57回　　265人

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
令和6（2024）	神奈川	雨宮　　清	雨宮クリニック 院長	婦人科がんの研究･治療に長年従事し、がん検診・予防啓発にも尽力
	鹿児島	池田　琢哉	鹿児島県民総合保健センター前理事長	行政との連携強化、がん検診の体制整備などで県民の健康維持に貢献
	山　梨	長田　忠孝	山梨県健康管理事業団 理事	肺がんを中心に検診・治療に尽力、在宅での看取りなど地域医療に貢献
	香　川	久米川　啓	香川県総合健診協会 会長	消化器がんの外科治療に尽し、女性のがん検診受診率向上にも取り組む
令和5（2023）	山　口	伊東　武久	徳山中央病院 緩和ケア内科 主任部長	長年にわたり婦人科がんの予防と治療、緩和ケア医療に尽力
	埼　玉	高橋　道子	東大宮クリニック院長	子宮頸がんを中心に女性のがんの治療、知識の普及に貢献
	福　井	広瀬　真紀	福井県がん検診精度管理委員会 幹事	福井県内のがん検診の一元的管理、精度管理の向上、均てん化に貢献
	山　口	松本　常男	公益財団法人 山口県保健予防協会 副理事長	肺がん検診の画像読影、後進指導などを通し、県民の健康増進に貢献
令和4（2022）	神奈川	渡會　伸治	石川町内科クリニック院長	消化器外科医として第一線で培った技術・経験を生かし、地域医療に貢献
	三　重	中井　昌弘	三重県健康管理事業センター理事 兼 診療所長	健診業務と結核・生活習慣病の予防の普及啓発に長年にわたって尽力
	栃　木	菱沼　正一	栃木県立がんセンター名誉理事長	肝臓・胆のう・すい臓の外科手術に熟練し、栃木県内のがん治療の進展に貢献
令和3（2021）	秋　田	戸堀　文雄	公益財団法人 秋田県総合保健事業団 理事長	がん登録事業や疫学調査などを通じ、秋田県のがん対策に貢献
	宮　城	渋谷　大助	一般社団法人 日本消化器がん検診学会 理事長	胃がん検診の画像診断精度、精度管理の向上などに努める
	群　馬	猿木　信裕	群馬県衛生環境研究所長	国内のがん登録事業の基盤づくりに尽力
	京　都	蔭山　典男	京都岡本記念病院 乳腺外科主任部長	京都府でのマンモグラフィ導入と乳がん発見数の向上に貢献
令和2（2020）	沖　縄	石川　清司	国立病院機構 沖縄病院名誉院長	沖縄県の肺がん検診受診率向上や肺がん治療に尽力
	長　崎	富田　弘志	長崎県健康事業団医局長兼健診部長	長崎県の肺がん検診の啓発、精度管理に尽力
	神奈川	長谷　　章	長谷内科医院院長	神奈川県の公共の場の禁煙推進、禁煙外来の開設支援に尽力
	北海道	藤田　博正	公益財団法人北海道対がん協会細胞診センター前所長	北海道の子宮頸がんの検診推進、予防啓発に尽力

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
令和元 (2019)	福　島	岩波　　洋	慈山会医学研究所付属坪井病院 名誉院長	福島県のがん検診受診率向上や禁煙教育に貢献
	山　形	大泉　晴史	大泉胃腸科内科クリニック院長	山形県の消化器がん検診の受診率、精度管理に貢献
	愛　媛	仙波　匡彬	公益財団法人 愛媛県総合保健協会 副理事長	愛媛県のがん検診事業の進歩・発展に貢献
	宮　城	矢嶋　　聰	杜の都産業保健会一番町健診クリニック	宮城県の子宮がん検診の精度管理に貢献
平成30 (2018)	茨　城	石渡　　勇	石渡産婦人科病院院長	茨城県の子宮頸がん検診の精度向上に貢献
	千　葉	河西十九三	ちば県民保健予防財団総合健診センター顧問	千葉県の子宮頸がん検診の推進、精度管理に貢献
	栃　木	清水　秀昭	栃木県立がんセンター名誉理事長	がん療養冊子を作成、全国のモデルへ
	広　島	谷山　清己	国立病院機構呉医療センター･中国がんセンター院長	病理外来の普及啓発に貢献
	岡　山	西井　研治	岡山県健康づくり財団附属病院長	早くから禁煙相談、禁煙外来に取り組み、肺がん予防に貢献
	神奈川	長谷川英之	神奈川県結核予防会・中央健康相談所名誉所長	藤沢市の肺がん個別検診確立に貢献
平成29 (2017)	鳥　取	三浦　邦彦	鳥取県保健事業団西部健康管理センター参与	鳥取県の胃がん検診の普及と精度向上に貢献した
	秋　田	井上　義朗	秋田県総合保健事業団 秋田県総合保健センター	胃がん・大腸がん検診の精度管理向上、体制強化に貢献した
	兵　庫	浦上　育典	浦上胃腸科・外科医院院長	乳がん検診の読影・精度管理に貢献した
	大　分	谷口　一郎	大分県地域保健 支援センター参与	細胞検査士の養成、子宮頸がん検診の精度管理向上に尽力した
	愛　媛	高嶋　成光	国立病院機構四国がんセンター名誉院長	乳がんの治療や治療法開発に大きく貢献した
	石　川	中村　　彰	うきた産婦人科医院名誉院長	子宮頸がん検診の精度管理に関して指導的役割を果たした
平成28 (2016)	広　島	木村昭二郎	広島県地域保健医療推進機構参与	広島の胃がん・肺がん・乳がん検診の読影精度向上に貢献した
	岐　阜	黒木　尚之	黒木医院院長	中山間地での子宮頸がんの早期発見・早期治療に貢献した
	群　馬	関口　利和	関口医院院長	胃がんの個別検診導入で、検診受診率上昇に寄与した
	熊　本	土亀　直俊	熊本県総合保健センター所長	熊本の胃がん検診の精度管理向上やがん征圧の普及啓発に貢献した
	兵　庫	西田　道弘	兵庫県健康財団 保健検診センター顧問	兵庫県の胃がん検診機関の精度向上に貢献した

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
平成27 (2015)	大　阪	今岡　真義	ＮＴＴ西日本大阪病院総長	肝細胞がんの治療成績向上や早期膵がんの診断・治療法開発に貢献した
	鹿児島	澁江　　正	前鹿児島県消化器がん検診推進機構会長	鹿児島県の胃がん検診技術向上や精度管理へ 50 余年にわたって貢献した
	愛　媛	久野　梧郎	久野内科院長	愛媛県の 5 大がん検診の精度管理に尽力した
	群　馬	本田　攝子	群馬県がん患者団体連絡協議会顧問	自らのがん体験を生かし群馬県のがん患者支援に貢献した
	茨　城	三井　清文	水戸協同病院名誉院長	茨城の肺がん検診の精度管理に約 30 年貢献した
平成26 (2014)	新　潟	小越　和栄	新潟県立がんセンター新潟病院参与	35 年の長きにわたり、消化器内視鏡を中心にがん検診に携わり、がん予防対策に貢献した
	京　都	郡　　大裕	元京都府医師会消化器がん検診委員会委員長	早くから慢性胃炎の病理・病態を研究したほか、２次検診の精度管理向上に尽力した
	山　形	本間　清和	ほんま内科胃腸科医院院長	検診申し込みを全戸配布にし、国に先駆けて無料クーポン券を導入するなど受診率向上に貢献した
	宮　城	安田　恒人	元宮城県医師会長	郡市医師会、市町村、宮城県対がん協会によるがん検診基盤を固め、集団検診の精度管理を進めた
平成25 (2013)	福　岡	原　　信之	福岡県すこやか健康事業団会長	肺がんの診療と研究に取り組み、九州大教授として多くの専門医を育てた
	茨　城	佐久間正祥	水戸赤十字病院名誉院長	胃がん、大腸がんの早期発見に尽力し、読影委員の育成に努めた
	千　葉	中川原　章	千葉県がんセンター病院長	小児がんの難治性神経芽腫の研究に尽力し新診断法や創薬のシーズを発見
	岩　手	狩野　　敦	岩手県対がん協会理事いわて健康管理 センター長	岩手県内の市町村を回って内視鏡検査に従事し胃がんの早期発見に尽力
	香　川	森下　立昭	香川県医師会会長 香川県総合健診協会会長	がん検診の受診率と精度の向上や地域医療のネットワーク作りに尽力した
	沖　縄	永山　　孝	介護老人保健施設 かりゆしの里施設長	個別方式の子宮がん ・ 乳がん検診の基礎を築き受診率向上 ・ 早期発見に貢献
平成24 (2012)	宮　城	菅原　伸之	元宮城県対がん協会検診センター所長	継続受診や比較読影など精度管理に貢献 、また県のコホート事業などを推進
	愛　媛	蔵原　一郎	蔵原放射線科医院院長	愛媛県のがん検診車導入を牽引するなど県の検診事業の先駆者として活躍
	千　葉	崎山　　樹	千葉県がんセンター 名誉センター長 千葉ヘルス財団理事長	ひと発がん遺伝子に関する先駆的基礎研究と県内のがん予防啓発・普及活動に貢献
	岩　手	仁昌寺幸子	いわてピンクリボンの会会長	「岩手町方式」という検診体制を構築し、がん検診受診率の向上・維持に貢献した
	山　形	早川　澄夫	前山形県結核成人病予防協会細胞診センター所長	子宮がん検診普及につとめるとともに細胞診断の技術、検査制度の向上に尽力
	岡　山	岡﨑　邦泰	くにとみ外科胃腸科医院院長	勤務医・開業医が一体となって検診に取り組む岡山方式の中心的推進役を務めた

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
平成23 (2011)	滋　賀	西山　順三	医療法人西山医院理事長	「大津方式」など滋賀県のがん対策事業推進の中心的役割を果たす
	神奈川	井出　　研	神奈川県予防医学協会常務理事	「二重読影」と「比較読影」を採用し肺がん検診の普及につとめる
	青　森	吉田　　豊	青森県総合健診センター前理事長	全国に先駆けた大腸がん検診開始と青森県の精密検査基幹病院を充実させた
	兵　庫	赤松　　暁	結核予防会放射線技師協議会顧問	県内および近畿地区の検診推進と全国の放射線技師育成、検診精度向上に貢献
	鹿児島	米盛　　學	鹿児島県医師会前会長	離島を含む県内検診受診者と受診者の満足度増加への積極策を推進
	長　野	松﨑　　廉	元長野県医師会消化器検診検討委員長	長野県民の胃・大腸集団検診の普及とトップレベルの検診導入に貢献
平成22 (2010)	沖　縄	糸数　　健	糸数病院理事長	全国に先駆けて、子宮がんと乳がんの集団検診を併行で実施
	新　潟	栗田　雄三	新潟県保健衛生センター理事長	二重読影及び比較読影を取り入れた肺がん検診の新潟県方式を構築
	千　葉	林　　學	ちば県民保健予防財団 名誉総合健診センター長	基本健康診査と各種がん検診を同日に行う「総合健診」を実施する
	埼　玉	吉原　忠男	埼玉県健康づくり事業団前理事長	医療従事者だけでなく、県民および行政担当者にがん検診の重要性・効果を訴えた
平成21 (2009)	秋　田	加藤　哲郎	秋田県総合保健センター長 秋田大学名誉教授	前立腺がん検診普及度を高めるなど地域のがん検診・対策に貢献
	広　島	鎌田　七男	広島大学名誉教授 広島原爆被爆者援護事業団理事長	精度の高いがん登録体制を築き、また原爆の医学的影響を解明
	茨　城	真田　勝弘	総合病院土浦協同病院名誉院長	検診の精度管理に尽力、また農村地域の胃、大腸がんの症例研究に成果
	宮　城	添田　　實	添田内科胃腸科医院院長 宮城県塩釜医師会理事	精検受診率の向上と胃がんの早期発見、早期治療に努力
	兵　庫	武内久仁生	兵庫県健康財団顧問	子宮がん集団検診運営の礎を築き、子宮がんの予防・研究・治療に貢献
	熊　本	中村　郁夫	熊本県総合保健センター名誉所長	放射線治療成績の向上に貢献、精度管理の徹底など検診体制の確立に尽力
	鳥　取	中村　良文	鳥取県保健事業団健診センター嘱託	胃がん・肺がんの読影と検診精度の維持・向上に尽力
平成20 (2008)	沖　縄	上村　昭榮	医療法人海秀会上村病院院長	沖縄県内で子宮がん検診、乳がん検診の個別化を推進
	富　山	前田　昭治	元富山県医師会副会長	富山県内でのがん検診体制や疫学調査システムの確立に尽力
	宮　城	大柴　三郎	大阪医科大学名誉教授 宮城県対がん協会名誉会長	胃がん集団検診で、胃カメラの改良など有効な検診方法を確立
	栃　木	富永　慶晤	栃木県保健衛生事業団顧問	呼吸器内科の専門医として栃木県立がんセンターの体制作りに貢献
	宮　崎	秦　喜八郎	宮崎県医師会顧問 はた産婦人科医院院長	宮崎県内のがん検診体制強化や受診率の向上に尽力

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
平成19（2007）	大　分	石川　　晃	石川胃腸科医院院長	胃がん検診体制確立のため医師や技師を養成、集団検診技術向上に貢献
	岐　阜	樫木　良友	朝日大学 歯学部外科学分野教授	乳がん検診体制を整備、Ｘ線技師養成等に努め検診精度向上に貢献
	岡　山	清水　信義	岡山大学理事・副学長	肺がん手術に胸腔鏡を導入、普及させた。禁煙教育にも力を入れた
	茨　城	鈴村　博一	鈴村医院院長	子宮がん細胞検査指導医として専門医や細胞診検査士の養成、指導に尽力
	兵　庫	髙安　幸生	たかやすクリニック院長	肝がんに取り組み、治療成績向上に成果を上げた。病診連携なども進めた
	石　川	西　　正美	金沢看護専門学校長	県のがん対策の基盤整備、とくに検診充実策の実施や患者支援に貢献した
平成18（2006）	広　島	岩森　　茂	広島市立安佐市民病院名誉院長	禁煙運動を推進。安佐市民病院を、全国に先駆けて禁煙モデル病院とした
	福　島	木村　和衛	福島県立医科大学名誉教授	県内の胃がん、肺がん集団検診の指導医師として事業推進に貢献した
	大　阪	小山　博記	大阪府立成人病センター名誉総長	乳がんの治療、検診、診断の普及に尽力。乳房温存手術を推進した
	千　葉	藤森　宗徳	前ちば県民保健予防財団理事長	県内の健康診断関係４団体の統合を推進。がん検診実施体制の規模を拡大した
	沖　縄	前田　憲信	前田胃腸科医院院長	胃集団検診読影世話人等として、県内の消化器病診断、治療の向上に尽力
平成17（2005）	愛　知	飯沼　雅朗	愛知県蒲郡市医師会会長	住民健診にマンモグラフィ検査やペプシノゲン法、PSA 検査を積極的に導入
	岩　手	大堀　　勉	岩手県対ガン協会会長	協会の運営基盤の確立に力を注ぎ、事務所の統合と検診センターの建設を実現
	佐　賀	土田　龍馬	元佐賀県総合保健協会専務理事	乳がん検診を先駆的に導入、マンモ検診を取り入れて発見率向上に貢献
	鳥　取	原　　宏	鳥取県保健事業団参与	乳がん対策の草分けで、現在も年１万１千件の読影を担当する医師の中核
	岐　阜	松下　捷彦	高山赤十字病院院長	地域医療に積極的に取り組み、全国平均を上回るがん検診受診率を維持
	茨　城	柳内　　登	国立病院機構茨城東病院名誉院長	県の肺がん検診を始動させ、読影指針のほか要精検者の登録・追跡調査を確立

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
平成16（2004）	栃　木	尾形　佳郎	栃木県立がんセンター名誉病院長	胆道がんなど消化器がん治療に貢献、県立がんセンターの基礎を築く
	香　川	形見　重男	前香川県総合健診協会会長	県内各種がん検診体制を整備、「かがわ遠隔医療ネットワーク」に貢献
	滋　賀	鎌田昭二郎	元滋賀県保健衛生協会理事長	県内のがん検診に当初から関わり、検診の普及、精度管理、啓発に貢献
	福　島	嶋　　多門	前福島県保健衛生協会会長	検診の充実、地域保健医療推進、「がん基金」推進や克服者の会に貢献
	山　形	塚本　　長	山形大学名誉教授	老健法対象前から乳がん住民検診を陣頭指揮、医師・技師らの指導養成
	青　森	柘植　光夫	前青森県総合健診センター診療所長	県内の胃がん集団検診に開始時から従事、がん登録の推進にも尽力
	神奈川	八十島唯一	神奈川県産婦人科医会会長	県内の子宮がん・乳がん検診精度の構築と精度管理の向上に寄与
	埼　玉	山崎寛一郎	前埼玉県健康づくり事業団理事長	市町村や医師会との連携による検診システムの確立と意識改革に寄与
平成15（2003）	福　井	小林　喜順	元福井県がん委員会肺がん部会長	福井県の肺がん検診体制の確立と有効性を実証する研究に実績
	奈　良	中元　藤茂	奈良県がん登録検討委員会委員	がん登録データの分析、統計資料の提供に尽力
	兵　庫	半田　祐彦	元相生市医師会長	集団検診の充実に努力、自らも大腸がん検診の実践と普及に実績
	宮　城	東岩井　久	県医師会子宮がん専門委員長	県対がん協会細胞診センター長として子宮がん検診に貢献
	茨　城	福富　久之	茨城県総合健診協会顧問	内視鏡によるがん検診の普及や、胃がんの分類法確立に貢献
	島　根	古瀬　　章	前島根県医師会長	県内のがん対策進展のために高度医療機器を積極的に導入
平成14（2002）	山　形	松田　　徹	山形県立成人病センター企画調査部長	がん登録、疫学研究や、内視鏡併用の胃検診のモデル事業に功績
	石　川	磨伊　正義	金沢大学がん研究所教授	胃Ｘ線・内視鏡の指導や医師会、大学、病院が一体の金沢方式確立
	大　阪	浜崎　　寛	元大阪市住之江区医師会長	地域医療のかたわら、大腸がん検診や疫学的研究に尽力
	兵　庫	松浦　　覺	兵庫県健康財団顧問	県内の医療機関を充実させ、医師や細胞検査士の養成に功績
	岡　山	山本　泰久	おおもと病院院長	岡山大病院時代から乳がん検診、治療、予防ＰＲ、医師の指導に尽力
	鹿児島	鮫島耕一郎	前鹿児島県医師会長	大腸、前立腺、乳がん検診などに新規事業を積極的に推進

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
平成13 (2001)	北海道	新保幸太郎	元札幌医科大学学長	1930 年代から、病理研究のかたわら北海道対がん協会の業務に貢献
	秋　田	正宗　　研	秋田県総合保健センター長	胃検診と精度管理に実績をあげ、自治体と県医師会の役割を制度化した
	埼　玉	古川　俊隆	丸山記念総合病院理事長	がん検診の結果を統一的に整理 ・ 分析する手引き作成に尽力した
	新　潟	三沢　博人	新潟県保健衛生センター会長	28 年間県内の保健所長を務め、新潟県方式の肺がん検診を実現させた
	石　川	高島　　力	県医師会臨床検査センター所長	金沢大学、輪島病院、輪島市医師会の連携によるＣＲ画像処理を確立
	兵　庫	小國　美種	姫路市医師会長	子宮がんの早期発見に務め、休日検診や節目誕生月の無料検診を実施
平成12 (2000)	山　形	斎藤　清子	医　師	病理医として細胞診断技術・検診技術の向上、地域医療に貢献
	千　葉	武田　敏夫	千葉大学名誉教授	心理学を活かして、受診者の不安感を解消するため心理技法を開発
	奈　良	石川　兵衛	奈良県立医科大学名誉教授	講演などを通じて啓発運動に努め、維持会員を倍増させた
	島　根	佐藤　方則	松江医療福祉専門学校校長	胃集検読影の中心的存在。撮影にも研究 ・ 工夫を重ね功績を残す
	宮　崎	久保　　貫	医　師	住民 ・ 職域検診体制を確立し、無料健康相談の制度を整えた
平成11 (1999)	山　形	水戸　省吾	山形県赤十字センター所長	胃集検の指導と追跡調査に努め、検診システムの基礎づくりに貢献
	鳥　取	米本　哲人	開業医	検診精度の維持、向上のために医療機関の登録制を確立
	香　川	竹内　義員	香川県立がん検診センター名誉所長	県内のがん検診の草分けで 、技術向上と若手医師の育成に尽力
	沖　縄	花城　清喬	開業医	がん検診と治療、機械整備など県民の健康保持に大きな足跡
平成10 (1998)	群　馬	家崎　　智	群馬県医師会会長	地域がん登録の推進や専門病院づくりなどに指導的役割をはたす
	埼　玉	星　　博巳	開業医	胃がん検診の地区読影体制の整備に貢献。一日がん相談日を発案
	滋　賀	細田　四郎	医　師	早期発見へのがん検診のネットワークづくりと後進の指導育成に尽力
	大　阪	佐藤　武男	大阪府立成人病センター名誉総長	喉頭がん治療に成果をあげ、喉頭摘出者の社会復帰を支援した
	福　岡	中村　裕一	開業医	胃集検の啓発運動と精度管理向上や医療従事者の資質向上に貢献
	沖　縄	幸地　昭二	医　師	がん対策のさきがけで、胃集検では迅速な事後措置体系を確立

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
平成９ (1997)	埼　玉	鶴田　重彦	元癌研病院技師長・診療放射線技師	がん予防技術職員の研修や新技術導入に指導的役割を果たす
	兵　庫	小嶋　高根	開業医	永年にわたり、がん検診受診率向上と読影精度向上に尽力
	岡　山	額田　　要	医　師	早くから、がん検診システムの確立に努め、がん予防対策に足跡
	熊　本	白男川史朗	医　師	複合検診の試み、水準の高い精密検診の実現、設備の拡充に寄与
平成８ (1996)	北海道	浅野　幸子	北海道対がん協会参与・保健婦	企画立案から事後管理まで、一貫した検診システムづくりに尽力
	宮　城	斉藤　達雄	東北大学名誉教授	がん化学療法の研究を進め、独自の療法学を確立した
	福　島	酒井　睦雄	開業医	肺がん検診の集団読影で精度を高める「いわき方式」をシステム化
	東　京	石原　和之	開業医	悪性黒色腫の診断と外科療法の指針を確立、生存率の向上に尽力
	東　京	粟原　操寿	慶応義塾大学名誉教授	基本的実技の究明、検診の普及など子宮がん検診の方向を主導
	岐　阜	土井　偉誉	岐阜大学名誉教授	胃Ｘ線診断技術で多くの手引書を著すなど指導的役割を果たす
平成７ (1995)	千　葉	渡辺　　武	千葉県医師会会長	視穂覚機器搭載車で県内を巡回する「動く健康教室」を展開
	新　潟	馬場　賢一	新潟県医師会顧問	精度管理から追跡調査まで、がん検診に全県統一方式を確立した
	京　都	安住　修三	元京都第一赤十字病院部長	乳がんの早期発見、早期治療の普及活動、担当医師の組織化に貢献
	兵　庫	木村　修治	兵庫県総合保健協会顧問	対がん戦略指導者として組織づくりに尽力、予防意識向上にも貢献
平成６ (1994)	宮　城	沖津　貞夫	宮城県医師会顧問	登録制度・効率とも世界に誇れる地域がん登録体制確立した
	東　京	藤井　　彰	元癌研付属病院 検診センター所長	集検の普及と精度向上、さらに検診従事者の教育に尽力
平成５ (1993)	栃　木	志賀　信雄	栃木県保健衛生事業団顧問	予防運動の先頭に立ち、検診体制の確立と普及に貢献
	長　野	宮下　美生	長野県成人病予防協会常務理事	読影委を組織して精度向上に努め、受診者を増やした
	奈　良	藤本伊三郎	地域がん登録全国協議会理事長	地域がん登録の実践的研究により大阪府でわが国初の電算化を実現
	山　口	松本　允正	山口県医師会顧問	知識普及、検診拡大に中心的役害を果たし、がん登録確立にも貢献
	大　分	辻　　秀男	大分県対ガン協会参与	集検体制確立と技術者養成によって精度向上に努めた

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
平成４ (1992)	宮　城	藤島　キシ	元宮城県対がん協会保健婦	東北一円でのがん知識普及活動と精度向上に寄与
	茨　城	三宅　和夫	茨城県・県西総合病院名誉院長	読影や放射線技師の指導などで精度の向上をはかる
	埼　玉	仲田　　寛	埼玉県医師会会長	精度の高い集検の普及と医療従事者の指導に尽力
	千　葉	平田　守男	前癌研病院 細胞診断部技師長	わが国の細胞検査士登録第１号。スクリーナー養成に貢献した
	福　井	山崎　　信	福井県立病院名誉院長	胃集検の充実とがん専門医の育成に尽力した
	鹿児島	南　ツギ卫	鹿児島県地婦連会長	地域婦人会を指導し婦人検診車を実現させるなど検診の支援に貢献
平成３ (1991)	東　京	平山　　雄	予防がん学研究所長	疫学的研究をもとに、次予防の大衆教育と国際的な活躍
	東　京	渕上　在禰	癌研附属病院顧問	永年にわたり胃集検を支える技術職員の養成に貢献
	石　川	村澤　健介	元金沢大学教授	胃がん集団検診の技術指導で、精度向上に貢献
	兵　庫	濱西寿三郎	兵庫県医師会会長	行政と協力し登録事業や人間ドックなど、がん征圧を推進
	岡　山	新　　泰雄	岡山県医師会顧問	検診を推進し、地域の健康保持に指導的役割を果たす
平成２ (1990)	宮　城	北川　正伸	開業医	一貫して検診体制の確立に努め、診断技術の向上に貢献
	東　京	神保　勝一	開業医	医師会主導の集検を推進し、都市部のがん対策に活路を拓く
	東　京	柳田　邦男	評論家	がんと闘う研究者の執念を紹介、医学徒の励ましとなった
	宮　崎	森　建二郎	宮崎市郡医師会成人病検診センター所長	Ｘ線読影技術の向上とＸ線技師指導などに尽くす
平成元 (1989)	北海道	田村　浩一	北海道対がん協会検診センター所長	検診体制の基盤を築き、早期発見を訴えた知識普及に貢献
	東　京	天神　美夫	佐々木研究所附属杏雲堂病院顧問	日母方式の子宮がん検診の普及と精度向上に尽力
	島　根	川上儀三郎	島根県医師会会長	辺地で胃がん早期発見など、県民の健康診査に貢献
	香　川	久米川久夫	香川県ガン予防協会会長	協会と医師会あげてがん予防を推進し、施設拡充にも尽力
	鹿児島	中馬　康男	鹿児島県民総合保健センター理事	離島や辺地への出張検診をする鹿児島方式を確立した

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
昭和63 (1988)	北海道	一條　　要	元北海道対がん協会事務局長	施設の充実、事業の拡大など、協会検診体制の基礎を確立
	福　島	太田　秀夫	福島県保健衛生協会名誉会長	検診体制の整備充実、受診率向上など、対がん事業に尽力
	東　京	相良　貞直	日本対ガン協会参与	知識普及や集検の推進、検診従事者の養成に貢献した
	愛　知	春日井達造	愛知県支部がん検診部長	胃集検の指導に携わり、精度管理と従事者の養成に尽力
	京　都	美馬　　陽	関業医	がん予防策の緊急性を訴える研修会など、知織普及に貢献
	鳥　取	大石　　寛	聞業医	子宮がん検診の知識普及と早期発見に、献身的な努力を積み重ねる
昭和62 (1987)	栃　木	小平　　正	前栃木県がんセンター所長	がん集検と施設の拡充を推進し、県立がんセンターの基礎を築く
	埼　玉	藤間　弘行	藤間病院院長	乳がん集検で、視触診にＸ線撮影を加えた埼玉方式を考案
	神奈川	野見山茂美	相模原市医師会会長	検診体制の確立と精度管理強化に中心的役割を果たす
	佐　賀	岩永　光陸	開業医	行政側と協力、胃集検組織を県内全域に拡大することに尽力
昭和61 (1986)	神奈川	畔柳治三郎	神奈川県予防医学協会理事長	がん検診体制の整備など、がん予防の組織を確立
	千　葉	桜井　義也	千葉県対がん協会会長	検診体制を強化、施設整備、細胞検査士など技術者養成に成果
	群　馬	鶴谷　孔明	群馬県対がん協会会長	県医師会、大学医学部と連携体制強め、検診基盤を築く
	宮　城	真田　松郎	元宮城県対がん協会事務局長	地域住民を巻き込んだ宮城方式確立など、実務で幅広い活動
	東　京	佐伯　克実	葛飾区医師会副会長	区医師会独自の胃集検を進め、読影と精度向上に貢献
昭和60 (1985)	高　知	西内　　巌	高知県総合保健協会副理事長	乳線集検方式を確立し、がん登録事業などの進展に努めた
	秋　田	前多　豊吉	秋田県成人病予防協会会長	読影システムの充実、婦人科検診の技術向上など集検体系を築く
	埼　玉	福島　茂夫	埼玉県対ガン協会会長	わが国初の乳房検診車の実施と、集検に医師会の支援体制を確立
昭和59 (1984)	北海道	山崎　武夫	北海道医師会会長	要精検者・治療者の受け入れ体制を築くなど、対がん事業に寄与
	宮　城	二階堂　昇	宮城県医師会 臨床検査センター所長	がん診療機構の効率的システム化への原体系を作りあげた

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
昭和58（1983）	千　葉	杉本郁太郎	百貨店会長	協会創立に尽力し、資金の充実、設備の整備などに貢献した
	熊　本	出田　邦夫	熊本県医師会会長	細胞検査士の養成、精検登録医療制の発足など検診体制を確立
	長　野	藤沢　　武	協会副会長	がん対策の基盤を築き、検診事業を育成、がん対策の法制化に尽力
	福　岡	清沢又四郎	元日本医師会副会長	県対がん協会設立に奔走、対がん運動に協力の土壌を築く
	富　山	越野　三男	産婦人科医	県内初の細胞診指導医として、指導と養成に情熱を注ぐ
昭和57（1982）	東　京	有賀　塊三	日大名誉教授	X線間接撮影を開発、胃集検の「 基盤を築き、全国的普及に貢献
	秋　田	九嶋　勝司	秋田労災病院院長	婦人科集検の基礎づくりと日母方式の確立などに功績を残す
昭和56（1981）	徳　島	斎藤　利勝	徳島県医師会顧問	協会の設立に奔走し、集検の普及強化や募金活動に貢献
	長　崎	瀧津久次郎	長崎県医師会会長	協会の発展に努め、胃・子宮・乳がん検診の全県的普及に貢献
	山　形	岸　　陽一	病院副院長	検診センターの建設、がん登録の実施など対がん運動に貢献
昭和55（1980）	埼　玉	藤間　利行	名巻病院院長	わが国初の子宮がん放射線治療法の開発など、婦人科集検の確立に貢献
	宮　城	河合字三郎	建設会社会長	検診センターの設立など協会発展の基盤整備に貢献
	青　森	福士重太郎	百貨店社長	検診センターの建設、検診車の整備など協会発展に貢献
	沖　縄	川平　昌晄	産婦人科医師	米軍施政下での臨床検査センター設立など、集検の普及に貢献
昭和54（1979）	岩　手	横川　貞夫	前岩手県医師会会長	日母方式による婦人科検診、維持会員拡大など教会の発展に寄与
	宮　城	松川　金七	宮城県医師会会長	がん検診を地域医療体制に組み込むなど、組織をあげての対がん運動
	千　葉	小林　金市	千葉県医師会会長	県対がん、県立がんセンター設立などがん対策推進に貢献
	東　京	鈴木　武松	診療所所長	地域、職域の胃集検に従事しながら医師を指導、技術向上に寄与

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
昭和53 (1978)	大　阪	布施　信良	国立大阪病院名誉院長	ラジウムによるがん治療の草分け。大阪対ガン協会の設立、育成に貢献
	愛　媛	今川　七郎	愛媛県医師会名誉会長	四国地方がんセンター設立に尽力するなど県の対がん運動発展に貢献
	神奈川	青木　　巽	神奈川県予防衛生協会理事長	集団検診の部位を増やし、県のがん対策推進の基盤作りに貢献
	北海道	広瀬　経一	北海道拓殖銀行相談役	検診センター建設、検診車の整備など道対がん協会の育成発展に貢献
	千　葉	鈴木　五郎	国立千葉病院名誉院長	県対がん協会設立に携わるなど、広く県のがん対策確立に寄与
	北海道	武田　勝男	北海道大学名誉教授	医師会を動かし精検受診率を向上させ、世界で注目される質の高さを実現
	愛　知	伊藤次郎左衛門	松坂屋取締役会長	県がんセンター建設に巨額の寄付など、常に対がん運動の先頭に立つ
	三　重	山松　真一	東和化工株式会社社長	県対がん協会設立に奔走、財政的にも支援し協会の基盤を築く
	岡　山	妹尾　　厳	順正短期大学教授	がん罹病調査など優れた統計資料を作成し、県のがん対策の基盤を築く
	茨　城	鈴木　達也	水戸共同病院院長	県対がん協会設立に携わり、検診事業を技術面から指導した主柱
昭和52 (1977)	北海道	鮫島　龍水	北辰病院名誉院長	40 年にわたり協会の育成に努め、検診センター運営の中心として活動
	宮　城	阿部　哲男	宮城県医師会顧問	大学、医師会、市町村、財界の対がん組織を固め、検診組織を確立
	鳥　取	太田実太郎	鳥取県社会福祉協議会会長	対がん運動を県政に反映させ、協会の発展、募金活動の展開に寄与
	群　馬	池上　直一	群馬県医師会顧問	協会設立を推進し、県医師会との協力体制を確立した
	宮　崎	福田　　実	胃腸科医院院長	県医師会を中心に複数読影制をとり、胃集検の精度向上に貢献
昭和51 (1976)	福　島	岩永幾太郎	支部長 県医師会顧問	検診の拠点となる成人病センターの整備拡大など対がん運動に貢献
	鹿児島	佐藤　八郎	支部長 鹿児島逓信病院院長	胃がんの早期発見の研究を進めるなど、胃集検の診断技術向上に寄与
	宮　城	山形　敞一	支部常任理事　東北大名誉教授	胃カメラの改良、撮影技術、診断方式の開発など胃集検の精度向上に貢献
	山　形	熱海　　明	支部常任理事 県立中央病院副院長	病理的研究、内視鏡検診車の開発など、胃集検の精度向上に大きく貢献
昭和50 (1975)	千　葉	花岡　和夫	支部長医師	県対がん協会の設立、県がん「センターの実現など、がん対策進展に貢献
	岩　手	篠田　　糺	支部長 岩手医大理事長	創立以来協会長として対がん運動の先頭に立ち、集検を軌道にのせた
	秋　田	並木資四郎	支部常任理事開業医	日母医秋田支部長として、婦人科集検体系の確立に貢献
	熊　本	河津　龍介	市立熊本市民病院院長	対がん協会発足以来、スクリーナーの養成と細胞診判定に指導的役割

年　度	都道府県	受　賞　者	所　　属	業　　績
昭和49 (1974)	埼　玉	高橋　貞助	前埼玉県医師会会長	他県に先がけて乳がんの検診車の実現など、県のがん対策推進に尽力した
	熊　本	鰐淵　健之	熊本学園理事長	婦人検診車の実現など、14 年にわたり県のがん対策に貢献
	大　阪	筒井　加雄	太子町長	町費で検診料を助成するなど、地域の胃がん死亡激減に貢献
昭和48 (1973)	大　分	加藤　　新	大分県医師会会長	県対がん協会会長就任以来、胃、婦人検診車の実現など集検事業を推進
	新　潟	渡辺　　宏	新津保健所長	20 年間にわたり、がん死亡の実態を追跡調査し自費出版
	宮　崎	河内　実世	県立病院検査科医長	県対がん協会の細胞検査を担当し、地域のがん予防対策の向上に貢献
	徳　島	渡部　里子	川島町保健婦	常に創意をこらして地域住民のがん知識の啓発に尽くした
昭和47 (1972)	千　葉	伊能　　正	元北佐原小学校校長	喉頭がん、横行結腸がんの体験記を発表し、で対がん運動に貢献
	山　形	高内　トミ	旅館業	自己の体験をもとに検診車の実現を訴え、子宮がん予防に貢献
	長　崎	辻　　一三	佐世保市長	喉頭がんを克服し市長の重責をつづけながら、術後者の社会復帰に貢献
	三　重	川村　久光	東海製糖社長	県対がん協会の設立に奔走、創立以来、募金活動などの育成・運営に寄与
昭和46 (1971)	愛　知	瀬木　三雄	瑞穂短期大学学長	24 ヵ国の協力で、世界で初めてのがん死亡統計を完成させた
	宮　城	伊沢　平勝	七十七銀行会長	募金活動の中心になるなど、宮城県対がん協会の設立・発展に貢献
	秋　田	藤原慶一郎	秋田県医師会会長	地域保健活動の組織を充実させ、５ヵ年計画県民皆検診の実施に寄与
昭和45 (1970)	宮　城	野田起一郎	東北大学助教授	検診車と日母方式により、婦人科集検体系を確立した
	埼　玉	高木　　教	越谷市健民係長	胃、婦人科集検の普及により、地域住民のがん死亡減少に寄与
	兵　庫	中田富士男	兵庫県医師会副会長	率先して医療施設を整備し、県のがん対策を推進させた
昭和44 (1969)	群　馬	羽生田　進	群馬県医師会会長	県医師会の組織をあげて自治体や群馬大と連携、がん対策の推進に貢献
	東　京	重原　勇治	銀鈴会会長	喉摘者の食道発声を指導して社会復帰に尽力、早期手術にも貢献
	大　阪	奥村松之助	阪喉会会長	人工発声器を考案実用化し、喉摘者の社会復帰に貢献
昭和43 (1968)	北海道	山口　喜一	元北海タイムス編集長	全国にさきがけて北海道に対がん協会を創設し、運動の拡大に寄与
	青　森	西山　正治	西山胃腸科院長	本邦初の胃集団検診車「黒川 - 西山式レントゲン車」を誕生させた

■ 日本対がん協会賞　団体の部

計57回　　133団体

年　度	都道府県	受　賞　者	代　表　者	業　　績
令和6（2024）	滋　賀	滋賀県がん患者団体連絡協議会	会長・菊井 津多子	患者・行政・医療の橋渡し役となり、地域のがん対策推進の原動力となっている
令和5（2023）	東　京	東京都立駒込病院	院長・戸井雅和	コロナ禍での造血幹細胞移植の継続と、がん教育による知識普及に貢献
令和4（2022）	東　京	特定非営利活動法人 Hope Tree	代表理事・大沢かおり	がん患者の子どもの支援を長年続け、医療従事者らの研修会も開催
令和3（2021）	大　阪	ケムラン～屋内完全禁煙の飲食店を応援する会～	管理人・伊藤　ゆり	屋内完全禁煙の飲食店紹介など、市民参加でがん予防の環境づくりに貢献
令和2（2020）	群　馬	群馬県がん患者団体連絡協議会	会　長・大島　主好	がん患者・家族支援の情報提供や交流会の開催など、がん患者・家族支援活動に貢献
	—	ブラザーチームジャパン	ブラザーグループの有志	リレー・フォー・ライフへの継続的参加でがん患者・家族支援に貢献
令和元（2019）	新　潟	一般社団法人 新潟市医師会	会　長・藤田　一隆	胃内視鏡検診の確立と死亡率減少効果の検証に貢献
平成30（2018）	愛　知	がん哲学外来 メディカルカフェどあらっこ	代　表・中村　航大	中学生主体で、がん患者や家族らが悩みを語り合うメディカルカフェを運営
平成29（2017）	福　岡	特定非営利活動法人 ストップ・ざ・がんの会	理事長・下田八須子	ボランティアによるがん啓発活動に大きく貢献した
平成28（2016）	埼　玉	NPO法人 埼玉乳がん臨床研究グループ	理事長・黒住　昌史	乳がんの専門医らが市民向けの乳がん啓発活動を展開
平成27（2015）	兵　庫	加古川総合保健センター	理事長・河合　　勝	2011 年度から働く女性のために、日曜日にも乳がん検診と併せて子宮頸がん検診を実施するなど、女性の受診者を増やすことに貢献した
平成26（2014）	愛　知	愛知県がんセンター	総　長・木下　　平	疫学・公衆衛生の研究で実績を重ね、がん予防情報を発信するなど、研究所併設のがん専門施設としてその役割を十二分に果たしてきた
平成25（2013）	千　葉	東金市	市　長・志賀　直温	県内で先駆け「 総合がん検診 」を実施するなど検診受診率向上に取り組んだ
	静　岡	富士市医師会胃腸疾患研究会	会　長・樫村　弘隆	1969 年から月に 1 回勉強会を重ね、消化器疾患の診断・治療の確立に尽力
平成24（2012）	福　島	しゃくなげ会	会　長・小澤　道子	子宮がん克服者の会として検診の重要性を県内に発信し続けた
	東　京	あけぼの会	会　長・ワット隆子	創設以来、乳がんの早期発見・早期治療の啓発と、患者支援に努めた
	香　川	宇多津町	町　長・谷川　俊博	未受信者への再通知や電話による受診奨励で、受診率を伸長させた
平成23（2011）	群　馬	ひまわりの会	会　長・一柳　一男	検診と早期発見を群馬県内に発信、県内の中心的患者団体として貢献

年　度	都道府県	受　賞　者	代　表　者	業　　績
平成22 (2010)	北海道	札幌がんセミナー	理事長・小林　　博	がんの基礎研究だけでなく、診断、治療と予防、啓発などに貢献
	広　島	広島がんセミナー	理事長・田原　榮一	毎年がんに関する学術研究集会を開催するほかがん研究助成などを実施
	栃　木	大田原市	市　長・津久井富雄	次年度の予約をとる独自の勧奨で検診受診率の向上に努める
	福　井	福井県医師会	会　長・松田　尚武	読影委員会の設立や医師の派遣など、がんの早期発見・治療に尽力
	群　馬	前橋市医師会	会　長・石田　　稔	チケット方式の検診を導入するなど先進的な事例で地域住民の利便性を高める
平成21 (2009)	青　森	鶴田町	町　長・中野　撃司	検診率県No.１をめざす積極的な取り組みで高い受診率を達成
	石　川	石川よろこびの会	会　長・村野　義昭	自己の体験を通じて、がんの早期発見・早期治療の大切さを啓発
平成20 (2008)	該　当　な　し			
平成19 (2007)	広　島	広島市医師会	会　長・平松　恵一	長く原爆の放射線被ばくの影響を調査 。がんとの関連検討の資料となった
	千　葉	長生村	村　長・石井　俊雄	個人ごとの検診状況を調査 、徹底した受診勧奨で非常に高い受診率を達成
平成18 (2006)	福　岡	福岡県八女保健所 肝がん等肝疾患対策専門委員会	委員長・吉田　　博	市町村の住民検診にＣ型、Ｂ型肝炎ウイルス検査を導入、多数の感染
平成17 (2005)	北海道	札幌市北区健康をまもるつどい	会　長・斎藤　芳子	がん検診で地域のリーダー役を果たし、高い受診率の維持に貢献
	広　島	広島県地域保健対策協議会	会　長・碓井　静照	先駆的な検診方法を採用し 、有効性研究や従事者の研修などに取り組む
平成16 (2004)	長　野	長野県医師会 消化器検診小委員会	委員長・須澤　博一	胃がんなどの集団検診の写真精度向上への様々な工夫と取り組み
	静　岡	島田市消化器研究部会	世話人・藤本　嘉彦	市、市民病院、市医師会の３者連携による胃がん集団検診で効果
平成15 (2003)	秋　田	秋田県農村医学研究所	所　長・林　　雅人	公衆衛生の向上、各種がん検診の実施と疫学研究への貢献
	神奈川	相模原医師会	会　長・矢島　　治	大腸がん検診受診率を高め、二次検診の充実に実績を上げる
	静　岡	静岡骨髄バンクを推進する会	会　長・小野田守男	骨髄移植ドナーの休日登録を実現するなどドナー増加に努力
	徳　島	日本産婦人科医会徳島県支部	支部長・寺内　弘知	子宮がん検診の実施と精度管理の向上へ貢献
平成14 (2002)	―	早期胃癌研究会	代　表・八尾　恒良	40 年にわたり、わが国消化器臨床医の研究の場としての実績
	山　形	山形まめの会	会　長・加藤　正治	全国よろこびの会の中核団体として患者。治癒者をまとめる
	熊　本	熊本市医師会 ヘルスケアセンター	所　長・福田　　稠	精度管理を重視し、超音波の肝臓がん住民検診に実績

年　度	都道府県	受　賞　者	代　表　者	業　　績
平成13 (2001)	宮　城	名取地区前立腺がん研究会	会　長・今野　多助	地域の前立腺がん検診・分析と中国でのモデル事業に国際協力
	滋　賀	長浜市健康づくり推進協議会	会　長・澤　　直樹	市民健康づくりの肺がん対策として禁煙対策を重視して推進
	長　崎	長崎県食生活改善推進連絡協議会	会　長・市瀬マサ子	食生活改善からがん予防に取り組み、受診一声運動も進める
平成12 (2000)	茨　城	茨城県母性保護産婦人科医会	会　長・鈴木　重次	子宮がん検診を積極的に推進 、その有効性を自治体にアピール
	東　京	社団法人 江戸川医師会	会　長・小暮　堅三	乳がん発見率や早期がん比率が全国レベルを大きく上回る
	滋　賀	大津市消化器 集団検診検討委員会	委員長・白倉　一路	診断のばらつきを防ぎ 、精度管理を徹底させ 、発見率アップ
	岡　山	岡山県栄養改善協議会	会　長・藤井　秀子	がん予防に食生活改善や運動奨励など 、テーマごとに提言
平成11 (1999)	千　葉	安房医師会	会　長・青木　　謹	精検から手術後の定期検査まで一貫管理に実績をあげる
	神奈川	藤沢市医師会	会　長・金子　義一	読影の創意工夫で肺がん個別検診を組織化し、発見率を高める
	新　潟	西川町	町　長・安沢　節英	各部位のがん検診を積極的に集検に取り込み、高受診率をあげる
	福　岡	志免町	町　長・南里　辰己	「日曜ふれあい検診」など町ぐるみで健康づくり活動を続ける
平成10 (1998)	宮　城	みやぎよろこびの会	会　長・田村　温義	「がん克服の生き証人」として草の根的啓発運動を展開した
	奈　良	桜井市医療センター	理事長・佐野　貞彦	32 年間、全市民を対象に幅広い検診を実施し、健康増進に寄与
	広　島	東城町	町　長・黒田　文男	日本一健康な町づくりを基本施策に受診率向上に努力
平成９ (1997)	青　森	森田村	村　長・佐藤　昭三	永年にわたり胃がん集団検診に努め、高い精検受診率をあげる
	和歌山	和歌山県胃がん読影専門委員会	委員長・佐藤　守男	胃集検フイルムを組織的に読影し、技術向上で早期発見に貢献
平成８ (1996)	静　岡	志太医師会	会　長・末仲　　晃	行政と一体になり、受診しやすい体制づくりと受診増に努力
	佐　賀	神崎町	町　長・田原　英征	肝がん予防を重点に検診の普及や疫学調査などに実績
平成７ (1995)	東　京	調布市医師会	会　長・中村　尚道	直接撮影法による高齢者の個別検診を進め、がん死を減らす
	石　川	日母医石川県支部	支部長・中村　　彰	「子宮がん死亡ゼロ」を目指し、集検や技術指導に貢献

年　度	都道府県	受　賞　者	代　表　者	業　　績
平成６(1994)	岩　手	金ケ崎町	町　長・高橋　紀雄	厄年検診、声かけ運動など幅広い運動で、多市町村の模範になる
	東　京	葛飾区医師会肺癌検診班	会　長・遠藤　啓三	胸部Ｘ線写真を再読影する「葛飾方式」を確立し大きな成果
	静　岡	静岡朝日テレビ	社　長・大倉　文雄	スポットや特別番組で、強力な乳がん予防キヤンペーンを展開
	鳥　取	大栄町	町　長・前田　八郎	生活習慣の改善など、町をあげて健康づくり推進に貢献
	岡　山	岡山県看護協会	会　長・小引　恂子	会をあげてがん予防運動を展開、知識普及や募金活動に成果
平成５(1993)	高　知	梼原町	町　長・中越　準一	住民皆検診をめざした高い受診率と、食生活改善運動の推進
	福　岡	福岡県郡市婦人会連絡協議会	会　長・秋田　幸子	地区別に独自の啓発活動を行い、受診者増大に努めた
	長　崎	長崎市医師会	会　長・石川　　寿	がん登録の調査研究で、原爆被爆者にがん発生の多いことを証明
平成４(1992)	富　山	富山県外科医会	会　長・木戸外喜夫	乳がん検診事業を積極的に推進し、多くの早期がんを発見した
	岐　阜	大垣市医師会	会　長・白木　　茂	判定委員会の充実など制度の高いがん検診に取り組む
平成３(1991)	岩　手	川井村	村　長・原　　真	住民皆検診を目指し、集団検診の拡大と受診率向上に貢献
	新　潟	新潟県二市北蒲原郡総合健康センター	理事長・近　　寅彦	12 市町村と医師会の連携で、各種がん検診に好成績をあげる
平成２(1990)	新　潟	守門村	村　長・野村　　学	集落ごとの保健会活動など、胃がん受診率日本一を持続させた
	山　口	下関市産婦人科医会	会　長・森永　虎彦	がん知識の普及と子宮がんの早期発見体制づくりに貢献
	大　分	直入町	町　長・岩屋　万一	一次予防学習会に取り組み、県内一の受診率を確保
平成元(1989)	宮　城	塩釜医師会	会　長・大井　　康	地域医療の一環として、がん対策の啓発と精度向上に尽力
	福　岡	夜須町	町　長・幾竹　敏男	検診に積極的に取り組み、高受診率を保ち他の模範となる
昭和63(1988)	山　形	山形県医師会	会　長・岸　　陽一	胃集検で、診断統一化と精度管理により早期発見に貢献
	東　京	小平市	市　長・瀬沼　永真	がん検診の受診率向上に個別通知の徹底と節目検診の実施
	長　野	穂高町	町　長・丸山　高義	保健補導員組織など町独自の活動でがん死亡を抑制
	石　川	根上町	町　長・森　　茂喜	がん検診無科化で「がん撲滅の町」を宣言、高い受診率を上げる
	静　岡	静岡市医師会付属臨床検査センター	会　長・松浦　徳久	会員が一丸となって検診から読影、細胞診まで取り組む
	岡　山	津山市医師会胃集検部	会　長・河原　大輔	施設、人員をそろえ、地域住民の胃集検活動に貢献

年　度	都道府県	受　賞　者	代　表　者	業　　績
昭和62（1987）	秋　田	矢島町	町　長・茂木　貞雄	全村落に健康推進員を組織するなどのがん対策で高い受診率
	愛　知	愛知県産婦人科医会	会　長・堀　　好二	子宮がんの撲滅へ検診マップ作成や啓発映画会などで受診率向上
	北海道	北海道健康をまもる婦人団体連合会	会　長・柴田　サヨ	がん予防知識の普及と受診率向上の推進母体となる
昭和61（1986）	島　根	旭町	町　長・岩谷　義夫	受診者台帳づくりなど、未受診者解消を進めて模範となる
	大　阪	能勢町	町　長・小林　　貢	ていねいな胃集検を実施し死亡率を低下、疫学調査にも貢献した
	広　島	広島県医師会	会　長・杉本　純雄	わが国初の組織腫瘍登録制度を発足させ、病理・統計・治療に貢献
昭和60（1985）	長　野	原村	村　長・菊池五八郎	モデル村をきっかけに地区一体で総合検診進め、成果をあげる
	山　口	新南陽市連合婦人会	会　長・安達ヨシエ	重点地区を定め、受診促進に貢献的に協力した
昭和59（1984）	熊　本	日本母性保護医協会県支部	支部長・八木　国男	組織をあげて、子宮がん検診と啓発、医療従事者の養成に取り組む
	鳥　取	日南町	町　長・高橋　篤史	町をあげての健康づくり運動に取り組み、胃集検で高受診率を達成
	和歌山	和歌山市医師会	会　長・冷水　和雄	がんの知識普及と検診を通じて、住民の健康管理に尽力した
昭和58（1983）	山　口	岩国市産婦人科医会	会　長・富山　忠彦	婦人科検診を会員から一般へと広げ、死亡率低下に寄与した
	岡　山	岡山県医師会 岡山成人病センター	会　長・永瀬　正己	集検を統一管理し、精検成績の追跡調査など、がん対策を推進
	佐　賀	七山村	村　長・大幡　次男	村職員と医師による啓発運動と、全額村費の集検で受診率向上
昭和57（1982）	香　川	財田町	町　長・川崎　　清	壮年層の無料総合検診など、他の町村にがん対策の範を示す
	富　山	日母医富山県支部	支部長・藤田　敏雄	組織をあげての「子宮がん００（ゼロゼロ）運動」で集検体制確立
	島　根	西郷町	町　長・村上　好一	受診勧奨と事後管理により、がん死低下をはかる
	静　岡	浜松市医師会	会　長・柳本　冬彦	会員を結集してのがん知識普及と、がん集検に貢献した
昭和56（1981）	宮　城	日母医宮城県支部	支部長・齋藤　一夫	組織をあげて施設検診を実施し、精度の高い検診体制を確立した
	千　葉	大原町	町　長・糸井佐太郎	住民の受診率を高め、がん撲滅宣言など啓発と検診事業を推進
	大　阪	大阪府医師会	会　長・山口　正民	がん登録の実施や肺がん集検の開発など、がん対策に貢献
	兵　庫	姫路市医師会	会　長・池内　光治	検診の精度など技術向上に努め、地域住民の健康増進に寄与

年　度	都道府県	受　賞　者	代　表　者	業　　績
昭和55（1980）	京　都	京都府医師会	会　長・有馬　弘毅	府と府下全市町村に呼びかけ、婦人科集検に「京都方式」を確立
	岐　阜	和良村	村　長・大澤　郁夫	各種集検を実施し、優れた健康管理とともに村民の保健向上に貢献
	鳥　取	鳥取県健康対策協議会	会　長・三好　実三	読影技術の向上や腫瘍登録の実施など、がん対策に貢献
	福　岡	福岡市医師会胃集団検診部	会　長・阿部　輝明	市の協力を得て胃集検の精度を向上、住民の健康増進に寄与した
昭和54（1979）	愛　媛	愛媛県医師会	会　長・吉野　　章	地方がんセンターの設立とがん集団検診の実施に貢献した
	徳　島	徳島大外科第二講座	教　授・井上　権治	乳がん検診を無報酬で実施、全県域の広げて研究に貢献
	佐　賀	佐賀新聞社	社　長・中尾　清登	優れた連載記事を掲載するなど、がん知識の啓発、普及に寄与
昭和53（1978）	宮　城	「宮婦連」健康を守る母の会	会　長・高橋　はつ	「胃がん半減・子宮がんゼロ」運動など組織をあげて対がん事業
	香　川	香川県婦人団体連絡協議会	会　長・矢野　　栄	募金で子宮がん検診車を購入するなど、県のがん対策推進に貢献
	栃　木	足利市	市　長・長竹　寅治	市独自で胃がんの集団検診車を購入、市民の健康増進を図る
	岩　手	宮守村	村　長・佐々木康治	がん予防の知識普及を徹底させ、村民皆検診で胃がん死ゼロへ
	埼　玉	埼玉県医師会	会　長・福島　茂夫	積極的な指導で、わが国初の乳がん検診車を実現した
	福　岡	柳川山門医師会	会　長・中村千代三郎	地域住民に早期発見・早期治療など、がん検診の普及啓発に貢献
昭和52（1977）	愛　知	東海腫傷懇談会	会　長・日比野　進	多年にわたり、地域のがん医学の研究を重ね、その向上に貢献
昭和51（1976）	福　岡	飯塚医師会	会　長・佐谷　久経	胃集検で筑豊地区住民の健康管理に貢献した
	大　分	大分県地域婦人団体連合会	会　長・椎原ムツヨ	検診車購人を実現させ、県内の子宮がん死亡減に貢献
昭和50（1975）	大　阪	大阪府衛生婦人奉仕会	会　長・嶋田マスエ	母子会、婦人会を母体に「子宮がん死ゼロ作戦」を展開し実績
	佐　賀	（社）尚和会唐津胃研究所	理事長・吉富　宗英	大学、保健所、医師会が一体の「唐津方式」による胃検診を確立
昭和49（1974）	岡　山	岡山県愛育婦人連合会	会　長・黒田　和子	会員の自主活動でがん検診の普及と受診率向上に貢献
	兵　庫	がん療養者援助の会	代　表・森岡　富美	乳がん治癒者を組織化し、悩みごと相談に応じるなど各面で援助
	福　岡	遠賀中間医師会	会　長・村田　　皓	総合的な成人病検診を開始し、地域医療の奉仕活動を継続
昭和48（1973）	富　山	富山県医師会	会　長・福田　　博	県成人病予防協会の設立の原動力となり、検診事業の発展に貢献
昭和47（1972）	沖　縄	沖縄県婦人連合会	会　長・宮里　　悦	婦人検診車を購入、本島から離島まで広範な地域で検診を実施

年　度	都道府県	受　賞　者	代　表　者	業　　績
昭46 (1971)	千　葉	館山市安房郡医師会	会　長・佐久間安雄	登録制で地域の疾患情報を管理し、各人の保健医療に多角的な貢献
	大　阪	吹田母子会	委員長・山口　秋子	会員が胃・子宮・乳房の集団検診を受けられる仕組みを確立
昭和45 (1970)	東　京	品川区医師会	会　長・曽根田義男	健康相談、胃・婦人科・乳房の集検を通じ、区民にがん知識を普及
	東　京	荏原医師会	会　長・時見　徹彦	
昭和44 (1969)	島　根	島根県連合婦人会	会　長・菜崎　綾子	婦人検診車を自前で購入、寄付金を集め県のがん対策に財政的貢献
昭和43 (1968)	宮　城	南方町	町　長・菅原　　敏	子宮がん集団検診を実施し、全国的普及への端緒をつくった